

## INTERVIEW

TAAサロン

あの人にきく



味の素 理事広告部長兼オリンピック・パラリンピック推進室長  
東京広告協会理事、総務委員会委員長

## 片上 崇さん

山口県出身。1987年、早稲田大学卒業後、味の素株式会社に入社。大阪支店配属。91年1月、カルピス食品工業株式会社出向。94年7月、味の素株式会社広告部。12年7月、ワンタイフーズ社出向。代表取締役社長。16年10月、味の素株式会社広告部長。17年7月、広告部長兼オリンピック・パラリンピック推進室長。19年7月、理事広告部長兼オリンピック・パラリンピック推進室長に就任。現在に至る。

# 東京 広告 協会報

2021  
VOL.  
125

TOKYO ADVERTISING ASSOCIATION (TAA)

発行 公益社団法人東京広告協会  
東京都中央区銀座7丁目4番17号 電通銀座ビル7階  
TEL.03(3569)3566 FAX.03(3572)5733  
E-mail info@tokyo-ad.or.jp

<http://www.tokyo-ad.or.jp>

## トップアスリートの食事を生活者の方々にも広めていく。

### 出向先で、ブランド力の強さを痛感

……ご自身の中で、味の素という企業を志望する  
決め手になったものは何だったのでしょうか？

大学生の頃の私にとって、味の素は、調味料など日常生活の中で馴染みのあるものを取り扱う会社ということで、親しみを感じておりました。でも、実際にこの会社に入りたいと強く思うようになったきっかけは、“人に惚れたこと”でした。大学の先輩で社員の方にお会いしたのを機に、次々と社員の方々とお会いして話を聞いているうちにどんどん惹かれていって……こういう人たちがいる職場なら面白そうだなと思った。それが大きな理由でした。

最初は大阪支店の配属になり、飲料の営業を担当。1979年に発売した、アルギニンというアミノ酸を配合した「アルギンZ」を皮切りに、多角化をしていた時代でした。調味料と違い、“味の素の飲料”は、まだあまり認知されていない時代ですから、ほとんどが飛び込み営業です。“1日30件”を目標に、兵庫県全域、京都の日本海側、滋賀県など、くまなく回り続けました。

入社4年目に入る少し前、関西エリアの地理にも詳

しくなった頃に、カルピス食品工業への出資が決まり、飲料事業を統合する中で、出向することになりました。そこで痛感したのは“ブランド力の強さ”でした。統合を機に「カルピスウォーター」という缶飲料を発売したのですが、これがなんと、営業に行かなくても売れるわけです。コンビニエンスストアでも、棚の一段がすべて「カルピスウォーター」になる。これ、営業も広告もいらさないじゃない、みたいな……そんな衝撃を受けたことが強く印象に残っています。

そこでは商品開発にも携わりました。今も続く「ほっとレモン」という商品です。商品開発し発売するには研究所、原材料調達、生産部門など、多く部門の人が関わってきます。それぞれの立場で考え方が違ったりする場合もあるなかで、いかにみんなを巻き込んでいか、いかにチームを作っていくか。そのような仕事の醍醐味というものを何度も感じる事ができました。あの時、カルピスの人たちと同じ目的に向かって一緒に仕事をしたことは、今に至る私の仕事の原点といってもいいくらい、とてもいい経験だったと思っています。

## 50代目前で初の海外赴任

……海外勤務のご経験もあると、うかがいました。

カルピスへの出向の次に印象深いのが、タイのワンタイフーズ社での仕事です。49歳になる手前で、もう自分は最後まで国内勤務だと思っていたところに、(自分としては)いきなりの出向でした。これまた文化や法律の違う外国で、1000人以上の人たちと一緒に働くということで、最初は戸惑いつつも、徐々に周りのメンバーとの信頼関係を築いていながら、仕事に取り組んだ日々は、得難い経験になりました。タイの人々について、とても印象深かったのは、人への思いやりの気持ちが強いということでした。たとえば、車線が複数ある広い道路でも、交差点に信号のない場所がわりとあって、フェラーリなんかもガンガン走っているのですが、そこにお年寄りや、子供を抱えた母親などがやってくると、横断歩道がないところでも車が止まってくれる。電車内にもシルバーシートという概念はなくて、高齢者がいると、どの席の人でも自然に席を譲っていました。滞在中、何度もそのような光景を目にしましたね。

## 五輪の1年延期もポジティブに捉えて積極的に活動

……2016年以降は本社で広告部長の仕事に就かれ、オリンピック・パラリンピック推進室長を兼務されていますね。

広告部に戻り、その翌年の夏からオリンピック・パラリンピック推進室長も兼務するようになりました。私たちは、「アミノ酸の働きで食と健康の課題を解決し、人びとのウェルネスを共創する。」というビジョンを掲げています。オリンピック・パラリンピック推進室では、トップアスリートを支援しながら、そこで得た知見を生活者の方々へと広げていく、さまざまな取り組みを行い、2020年7月の東京2020大会の本番に向けてさまざまな準備をしてきました。その中で、1年延期になったということには、ものすごく大きなインパクトがありました。

長年、計画していたことがすべて1年延びる。加えてコロナ禍という状況の中で、なかなか先が見えない。推進室の一人ひとりのメンバーのモチベーション

をどうやってもう一回リセットし、上げていくか、という部分で苦労したことも事実です。でも、そのような状況から、組織内で徐々に“1年延期をポジティブに捉えよう”という思いが芽生え“じゃあこの延期で一体、何ができるのか”と、前向きな意識に切り替えていけるようになっていきました。たとえば2020年の春には、選手をサポートするメンバーを中心に実際にメディアに出て、生活者の方々の免疫力を高めるための食事のアドバイスをさせていただく、という活動に全員で積極的に取り組みました。

さらに2021年の五輪本番の年には、我々がIOCと共同で設置した、日本代表選手のための戦略的な栄養サポート拠点「G-Road Station」において、エナジー餃子とコンディショニング餃子という2種類の餃子を開発し、多くの選手に高い評価をいただいたということもありました。選手たちにとって、試合前にはエネルギーを高める食事、そして試合後には体の調子を整える食事、というものがいかに大切であるかということを改めて感じていただくこともできました。さらに、暑い夏場でしたので、コンディショニングをサポートするアミノ酸を配合した冷凍デザートも開発し、これも大好評でした。このような開発は、おそらく1年延期にならなければ実現しなかったことだと思えます。

味の素ナショナルトレーニングセンターでオリンピック・パラリンピックの日本代表選手の方々とお話しし、人と人がリアルに接することの大切さを改めて感じることもできました。今回の東京2020大会には開催の賛否もありましたが、きちんと実施できたことは素晴らしいですし、何年かのちに、いい大会だったと言えるのではないかと思います。

私自身のコロナ禍以降の変化といえば、在宅勤務が増えたことで、朝の通勤にかかっていた約1時間を、ウォーキングに当てるようになったということがあります。毎朝、5、6キロ歩くことが、すっかり習慣になりました。また、以前から好きだった料理をする時間もさらに増えてきました。お刺身はきっちり角が立っていないと嫌な性分なので、マイ柳葉包丁を研ぐ回数も増えております。(インタビュー・文 牧野容子)

## 活動報告

### 【実践広告スキルアップセミナー】多彩な講師陣が「DX」の先を展望

令和3年度実践広告スキルアップセミナーは、「DX、その先へ～見据えたいビジネス変革や顧客体験の向上～」の全体テーマのもと、「広告主」「メディア」「広告会社」それぞれの立場から、多彩な講師陣を招いて9月21日～10月15日の期間、録画配信にて実施した。

各講師は、DXの先を見据えた新たなビジネス変革への挑戦や、顧客価値体験向上のための日々の取り組みなどについて講演を行った。



秋枝 真二郎氏  
(キリンホールディングス)

#### Day1 「広告主の視点から」

- 【講演1】 株式会社ビービット 藤井保文氏
- 【講演2】 キリンホールディングス株式会社 秋枝真二郎氏
- 【講演3】 凸版印刷株式会社 梅川健児氏

#### Day2 「メディアの視点から」

- 【講演1】 株式会社プレミアム・プラットフォーム・ジャパン 田中徹氏
- 【講演2】 PIVOT株式会社 佐々木紀彦氏
- 【講演3】 ビークス株式会社 白土学氏  
株式会社ドリームインキュベータ 半田勝彦氏、株式会社電通 金原亨氏

#### Day3 「広告会社の視点から」

- 【講演1】 株式会社サイバーエージェント 高橋 篤氏
- 【講演2】 株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ 藤本耕平氏
- 【講演3】 株式会社電通デジタル 安田裕美子氏

### 【第2回特別講演会】小川さやか氏を招き開催



小川 さやか氏

第2回特別講演会は、講師に小川さやか氏(立命館大学先端総合学術研究科・教授)を招き、演題「テクノロジーとインフォーマティの未来—挑戦しやすさと生きやすさを模索する—」のもと、11月15日～11月30日

の期間、録画配信にて実施した。

小川氏は自身のアフリカなどでのフィールドワークの経験をもとに、価値観が多様化している現代での生き方や物事の考え方などについて、文化人類学的な視点から示唆に富んだ講演を行った。

### 【第24回高校教諭に対する広告研修会】SDGsをテーマに実施



川廷 昌弘氏

第24回高校教諭に対する広告研修会が、12月2日、オンラインで開催され、東京都商業教育研究会(都商研)及び東京都公民科・社会科教育研究会(都公社研)から18名の教諭が参加した。

「SDGsで自分を変える、未来が変わる」と題し、川廷昌弘氏(株)博報堂DYホールディングスグループ広報・IR室)がSDGsの意義や最新事例などについて説明し、教育現場でのSDGsへの取り組みの重要性を説いた。

### 【第27回大学生意識調査プロジェクト】コロナ禍での「大学生の交友関係」を調査

第27回大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2021)は、「『大学生の交友関係』に関する意識調査」をテーマに調査を行い、12月7日に記者発表会を行った。参加大学は青山学院、駒澤、専修、千葉商科の4大学。

調査によると、大学生が最もよく使うSNSは、LINEがトップという結果であったが、“初対面の人と交換するSNS”に絞ると、Instagramがトップとなった。これは、Instagramの「友人の情報をコミュニケーション無しに見ることが出来る」という点が評価されたことによる。

大学生のSNS活用方法から、デジタルから始まる友達づくりの一面が見ることができた。また、友人に対して「楽」な関係性を求める一方で、尊敬や素の状態でいられることを重視しており、現代のコロナ禍大学生の最先端の友人づくりから関係性の深め方までを解き明かすことができた。詳細な調査結果は東京広告協会ホームページまで。



## 【第41回東京広告協会 白川 忍賞】岸 志津江氏(東京経済大学教授)に決定

第41回「東京広告協会 白川 忍賞」選考委員会が令和3年12月3日に開かれ、同賞に岸 志津江氏(東京経済大学教授)が選出された。贈賞式は令和4年2月22日開催の第94回定時総会式典上で行われる。

## 【広告法規マニュアル第41号】「2020年改正個人情報保護法の概要と実務上の留意点」発行

東京広告協会法務政策委員会は、このほど、広告法規マニュアル第41号「2020年改正個人情報保護法の概要と実務上の留意点」を発行した。令和3年12月23日には、執筆者の中野裕仁氏(株電通法務マネジメント局)が、オンラインで内容説明会を行った。

## イベント案内

### 【第70回全広連沖縄大会 5月に開催】

第70回全日本広告連盟沖縄大会は、令和4年5月19日～21日、大会テーマ「広告で未来を明るく!ようこそ南の島の広告祭へ」のもと開催される。沖縄での開催は、30年ぶり2回目となる。

前年の山陰大会に引き続き、「現地参加」に加えて「オンライン参加」も受け付ける。申込詳細は決定次第、文書・ホームページ等にてご案内予定。

#### 【第70回全広連沖縄大会概要(予定)】

[ 主 催 ] 第70回全日本広告連盟沖縄大会組織委員会  
全日本広告連盟

[ 会 期 ] 令和4年5月19日(木)～21日(土)

[ 式 典 ] 5月19日(木)会場: 沖縄アリーナ(沖縄市)

[ 見学会 ] 5月20日(金)、21日(土)

[ ゴルフ会 ] 5月20日(金)



JAPAN ADVERTISING FEDERATION IN  
OKINAWA 2022  
広告で未来を明るく!  
ようこそ南の島の広告祭へ

## インフォメーション

### 理事会・委員会 開催報告

11月16日(火)	業務委員会
11月19日(金)	法務政策委員会
11月29日(月)	広報委員会
12月 1日(水)	総務委員会
12月 3日(金)	第41回「東京広告協会 白川 忍賞」選考委員会 第50回定例理事会

### 次回総会・理事会・委員会 開催スケジュール

1月17日(月)	広報委員会
1月18日(火)	法務政策委員会
1月19日(水)	業務委員会
1月24日(月)	総務委員会
1月31日(月)	第51回定例理事会
2月22日(火)	第94回定時総会(帝国ホテル)

### 新入会員社紹介 (敬称略)

日本フェイウィック(株) 代表取締役社長 阿部 浩明